

ひろば

大代

5561220

大代公民館

五十六年の反省

運営委員 橋本昭二

館長を始め皆さんの、た
ゆまぬご努力で無事今年の
行事も終わり、八十二年を
待つばかりとなりました。

特に先月二十二日の文化
祭は好評のうちに行われ、ま
う一日あればなあとの声
が聞かれた程でした。

今年の正月初会合でもお
話しの有りました町民プー
ルの建設が未だ実現しない
のが残念です。

然しお聞きしますものに五
十七年度に竣工し、来夏には
子供達の元氣な姿がプール
サイドで見られようとの
事で安心致しております。
来年(べき)希望の来春、地
域の皆さんのご理解と協力

を得て、より明るい大代を
送るお手伝いを致したいと
思います。

文化祭所感

中学校長 鹿野奇雄
運営委員

「オーイ、その木を取っ
てごせえや」と、甚だ持っ
てこいやし、それ釘が針金だ
と、わい(く)がやく

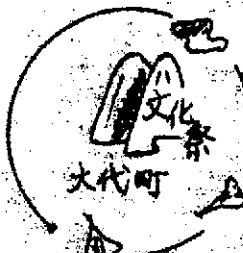
お化屋敷制作の一コマ。
男子生徒担当者が数人が、計
画に沿って協力しながらの
会場作りであった。

一人一人の顔は自信に満
ちており、生き生きと、汗
を流している姿は頼もしさ
さえおぼえ有程でした。

全生徒が何らかの形で参
加し得た事は、大きな収穫
だったと喜んでいきます。

又、友達の間や祭表にふ
れるだけでなく、町民の皆
さんが丹精こめて作られた
数々の作品は自慢の絵画、

金銭等々を見ることによっ
て意欲を燃やし、よりよく
作る意(創造)努力をす
るならば、一層意欲燃いし
のとなるでしょう。



文化祭への参加

婦人会 花田野子

- (一) 伝統を守り、時流に参る。
- (二) 地域性を考える。
- (三) 社会のお子達を大切に。
- (四) 奉行的作品は善財。

・会員出品の雑布

・井岡製作のさぶとん

(五) 障子は立体的、動的にし
て、昔縁への働きかけを、
等々、どうぞ当日の会場を
今一度思い起して下さいま
せ。

文化祭によって親睦、学

習奉仕の婦人会活動と展開
させて頂くことが出来まし
た。

今後ますます、地域への
役立ちを、話し合いまし
た。

▲ 中学三年 藤子明
「文化祭の意欲の一つに
「進歩すること」と云うの
がある。こう云う意欲では
今年の文化祭は成功したと
も云えぬだろう。

成功した理由は、準備の
段階で、わいと皆が進歩を
意識していたことだと思ふ。
またバザー会場には花で

文化祭を表し、気持ちはよ
く行事が出来た。またお化
け屋敷は大好評である側の
方も一つのやりがいを感じ
た。

終りの会では、今日の成
を感し致して、と有る
組んで取ったことが忘れら
れない。

赤斗も頑張つて欲しい。

◆盆栽展

自治会長 武田勇

今年の盆栽展は、大体昨年と同じく三十桌程度の出品が有りました。

どの見ても平素から長年に亘つて管理してこられた愛好者の方の気持のわかる様な逸品揃いでした。

わからぬ下りも、いい盆栽を見てみると、本当に心が休まる様な思ひがします。

見に来られた方は、盆栽に興味を持たれる方に限られたものか、念体的に少なく持たし婦人層の方の姿があまり見られなかつた様だと思ひます。

尚書造うラフの出品で一段と盛り上つたことは嬉しうことでした。

◆お茶席

熊谷真知枝

文化祭の目玉と云えば、無料お茶席ではないでしょうか。

日常めつたに口にするこののど、赤口苦いお抹茶と、おいしいおまんじゅうを味わい下うの一ときを過ごすのは大変意義深い事だと思ひます。

百五十人分の準備はまたたく間に底をつく有様。この頃の若い人達のコーヒー、紅茶嗜好の傾向から日本茶の美さを充分理解、賞味していただくだけでもうとも良い行事ではないでしょうか。

◆美術部

久自治会長 窪田繁太郎

昨年に続いて美術部の担当を致しました。

本年は石東町出身の書画陶芸造作顕彰展とあつて期待されました。昨年は比べ入場者の少なかつたのは残念に感じました。

残念に感じました。

然し農老物の品評会、婦人会の各支那作品展、食品コーナー、お茶席招待となかなか大変な一日でした。

それにも増して本姓に当られた方々、本当に苦勞さんでした。

又今年の文化祭も盛り上げて行くうではあうませんか。

◆農老物即売会

婦人会 山口富子枝

品評会に併せ野菜即売会は婦人会も協力させて頂戴しました。

ヤタからの集荷は支部長長さんのゆきわけが大きな役目となっております。

農家の車で集荷して頂き、その要数は四〇〇にもなりました。

会場では責任者四名、産部員廿名、史々任に當つて頂き、即売ともなればどつと大忙しでした。しかし

皆さんの力量あるゆきかけによりまして夕方迄にはなんとお集計も出来まして、各支部へ渡す事が出来ました。

大勢の方の文なることとあうため感謝しました。

健康の第一歩は先づ歩くこと

歩け歩け大会後記

植松 後藤在正

「山登り、八十代は何のそこのと寿会として参加しました。」

余り迷惑もかけずは復讐来たことを喜びました。

行先は飯谷山と神社でした。お井孫から神社の由來を聞き、四方の山々を仰ぎ、古の物語りを知らずも出来ました。

飯谷を囲んでの中食も格別美味が感じました。お茶もあつたのでお茶も格別美味が感じました。